

特定非営利活動法人ずし楽習塾推進の会

1. 平成29年度事業の特色及び内容

- ・昨年度に続き(株)パブリックサービス(以後PSと略す)が指定管理業者として逗子市より交流センター全般の運営を委託され、市の生涯学習事業の中の「ずし楽習塾講座」は今年度もPSからの再委託となりました。PSとの定期交換会は引き続き継続し講座全般についての問題を調整し解決してきました。
- ・今年度よりⅠ型、Ⅲ型に加えⅣ型でも受講生から受講料(or 資料代)を徴収し、当会の運営に寄与する事になりました。
- ・会計システムについてもNPO法人会計に造詣の深い手塚館長(交流センター)のアドバイスも有って当会の会計規程を見直し、見やすい・簡明なシステムに新年度から取り組んで行く事になりました。
- ・又従来の受講生募集は市の広報誌「広報ずし」に頼るところが大だったのですが、市の広報部門の方針変更も有ってか?当会の募集記事に割かれるスペースが年々減少して来ました。そこでホームページ・ロビー展示・知人へのメール案内等に力を注ぎ、結果的に昨年度よりトータルの参加人数を増やす事ができました。更に新しい集客手段を模索する必要も有ると考えます。

(1) PSから(逗子市関連)の生涯学習に係る受託事業

(a)講座開設総数

Ⅰ型(市民講師講座)：19座、Ⅱ型(市民グループ等企画講座)：4講座、  
Ⅲ型(プロジェクト企画講座)：3講座、Ⅳ型(協働企画講座)：2講座  
の合計28講座でした。

(b) 講座受講者総数は、平成29年度の受講者総数は1,737名でした。

(c) 各講座毎に見ると

- ①Ⅰ型講師の応募・企画書提出は40名でしたが、受講生募集の結果必要最少人数(6名)が確保できない講座もあり、開講が決定した講座は20講座でした。そのうち1講座(英会話)は講師が急遽入院され中止となり、実質19講座の開講となりました。8月5日からスタートし12月27日には全ての講座が終了しました。新しい講座としては『魔法の朗読』『地球にやさしい掃除術』『自然観察会』等があり、昨年に続き『仏像へのいざない』講座では受講者40名となり、2部屋通しでの使用となりました。

②II型は昨年度より“福祉・子育て支援等の活動グループと市民”に対象を絞って応募者を募りました。次の4グループから応募が有り理事会でも審議した結果、予算内で対応可能という事で初めて4グループに委託しました。

1. 『録音ボランティア』(延 173 名)、
2. 『グループつながり』の[地域で子育て・実践例](延 49 名)、
3. 『お互いさま桜山向原』の[改めて自分たちの地域福祉](延 49 名)
4. 『ほほえみドレスの会』の[人形ドレス作りで高齢者に生きがいを](延 12 名)。

③III-1型(企画型テーマ講座)

『現代科学技術が社会と暮らしを変える』

—その光と影を一緒に学びませんか—

第1回「ロボットが変える、私たちの暮らし」

第2回「クルマの未来」—人と地球の共存は可能か—

第3回「遺伝子組替えて食品は安全でしょうか？」

第4回「インターネットの光と影」

上記の様ななかなか難しい4講座でしたが各回30数名集まり、延140名の参加でした。

特に遺伝子組換え食品、インターネット等は話題性も有ってか好評でした。

④III-2型…担当女性理事の退会も有って、新たな企画メンバーに女性だけでなく男性も入り、新リーダー(女性)のもと新生スタートしました。

(女性力アップ講座) 『世界を旅して、出会って、歌って』

—いつでも今が人生の始まり—

今回も頑張っている女性をテーマに世界で行動するシンガソングライター・横井久美子さんを招き、ベトナム、ネパール、アイルランド等での演奏活動と社会活動(子供にギターを教えたり、音楽ホールを造ったり)の極めて行動力あふれるお話をお聞きし、時折ギターの弾きがたりの歌も有って、参加者からは講師の生き方(いつでも今が人生の始まり！スタート地点は今自分がたっているところ！)に強い感動を覚えたとのコメントも多かったです。(参加者77名)

⑤III-3型(アート講座)

『山口蓬春・その美』

—風薫る葉山の自然の中で—

昨年度は企画メンバーが集まらず開設出来なかったが、過去非常に好評だった経緯も有り、復活を期して旧メンバーに声を掛け実施できました。

地元葉山の山口蓬春記念館の副館長を招き、作品・画風・その背景等映像をまじえて説明され、受講者も64名と多く好評でした。

⑥IV型（協働企画講座）では今年度も引き続き『地元の食材探訪』をテーマに2回開催しました。

\*第5回は食材の加工・販売でなく“農業・酪農の第1次生産者の苦心談”を聞く事にしました(参加者50名)

第一部 『山森農園の特徴とICT(情報通信技術)の活用事例』

野菜栽培にICT(情報通信技術)を活用した気象や土壌水分量の収集およびデータを重視した“少しでも失敗の無い農業”を目指す話でした。

第2部 『高座豚手作りハム創業の思いと日本の養豚振興』

良質な自家配合飼料の開発、徹底した飼育管理の合理化、繁殖母豚の改良など20年に及ぶ研究と努力で完全復活させた新生高座豚への思い、日本の養豚振興についてお話を伺い、高座豚手作りハムを美味しく試食しました。

\*6回は“食と健康を考える”をテーマに日頃口にする地元食材(まぐろ)の背景、歴史、食べ方、効能等のお話を聞きました(参加者62名)

第1部 『海の食品素材の健康・美容効果』

免疫力を高める栄耀食品(まぐろ)の効能・豊富なEPA, DHA等の働きに付き解り易くお話して頂いた。

第2部 『知って納得!目からうろこのまぐろ講座』

マグロ遠洋漁業の維持存続させるべく魚食文化の普及、マグロの伝道師としての鮪コンソルジェの育成等のお話とともに三崎マグロを試食しました。

## (2) 自主事業

### (a) 『談話サロン』

本年度(H29年4月~H30年3月)も毎月開催され、年間延参加者は275名で毎月平均20数名の参加者でした。

本年10月には特別卓話として神奈川県考古学会役員の金子好伸氏迎え『最初のアメリカ人は縄文人だった!?』のテーマで話して頂きました。

2001/8/1には“アメリカ大陸一番乗りは縄文人だった”と米国全土街頭電光掲示板に発表された由。

### (b) 生涯学習に関する調査・研究・情報提供事業

・会報の編集・発行・配布

年2回の発行を予定している会報「ずし楽習塾だより」では、まず会員募集を重点にした秋季号(No23号)をH29年9月に発行し、各講座紹介を中心とした春季号(No24号)をH30年4月に発行します。

・調査・研究活動としては、「会計学入門」講座を交流センターにて受講しました。

(3) 本年度の講座でも交流センター以外としては「沼間コミュニティセンター」を使用しましたが、PSの職員を始め関係各位のご協力により、問題無く初期の目的を達成する事が出来ました。

\* 以上の通り全般の事業活動を遅滞なく無事終了でき、成果を挙げ得たのは当会会員の献身的なボランティア活動と共に、関係各位のご理解とご協力の賜物と感謝申し上げます。

### 平成29年度ずし楽習塾講座(主要総括表)

講座名	市民講師 企画講座 (Ⅰ型)	市民グループ 等企画講座 (Ⅱ型)	プロジェクト チーム企画講座 (Ⅲ型)	協働企画講座 (Ⅳ型)	談話サロン	合計
開設講座数	19講座	4講座	3講座	2講座		28講座
開設講座回数	93回	13回	6回	2回		114回
実施時期	自29/8 ～ 至29/12	自29/9 ～ 至30/2	自29/5 ～ 至30/3	自29/9 ～ 至30/3	自29/9 ～ 至30/3	
	市民交流 センター  沼間コミセン	市民交流 センター	市民交流 センター	市民交流 センター	桜逗会館	
受講者数	187名	109名	281名	112名	275名	964名
受講者延数	786名	283名	281名	112名	275名	1,737名

◎ Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型講座の受講者数に、当会会員・市民委員を参入しておりません。